

直説法現在. 規則変化

Q-1: 「直説法」とは何ですか？

スペイン語の動詞は、法、時制、人称・数によって語尾が変化します¹。「法」には、文の内容の真偽に関心を示す「直説法」と、その内容の真偽に関心を示さない「接続法」(subjuntivo)があります。私たちが何かについて話をするとき、それが本当のこととして話します²。質問するとき、それが本当かどうかに関心があります。そのようなときに使うのが直説法です。接続法については後で触れます。

Q-2: 「現在時制」とは何ですか？

動詞の現在形が示す「時」のことです。一般の「時」(過去、現在、未来など)と一致することもあります、異なることもあるので、文法では「時制」という言葉を使います。たとえば、現在時制は過去の時を示すとき(いわゆる「歴史的現在」)や未来の時(確実な「予定」)を示すこともあるからです。現在時制以外のことについては、それぞれの時制のところで説明します。

¹ スペイン語の単語は一般に、最初の部分(語根)が意味を示し、語尾が文法的な機能を示します。

² 嘘をついて話すときも直説法を使います。嘘をついている人は、相手の人にそれが本当のことだ、と言って話しているわけです。

Q-3: 「人称・数」とは何ですか？

「人称」は話し手、聞き手、その他の人やものを示す概念です。「数」には単数と複数があります。人称・数の組み合わせによって次の 6 つの場合があります。

- 1 人称単数: 話し手を示す。「私」という意味。
- 2 人称単数: 聞き手を示す。「君」という意味。
- 3 人称単数: 話し手と聞き手以外の単数の人やものを示す。「彼」、「彼女」、「それ」などの意味。他に、usted「あなた（貴兄、貴女）」という聞き手への敬称にも使われる。
- 1 人称複数: 話し手を含めた複数の人を示す。「私たち」という意味。
- 2 人称複数: 聞き手を含めた複数の人を示す。「君たち」という意味。
- 3 人称複数: 話し手と聞き手以外の複数の人やものを示す。「彼ら」、「彼女たち」、「それら」などの意味。他に、ustedes「あなたがた」という複数の聞き手への敬称にも使われる。

人称の概念は動詞の活用形と代名詞で使われます。

*ここで示す単数と複数の概念は、名詞や代名詞の単数と複数の概念と違いますから注意しましょう。たとえば、「本」の複数形は「本」が複数あることを示しますが、1 人称複数の「私たち」は 1 人称単数の「私」が複数あることを示しているではありません。また作り方も違います。複数形はふつう s や es をつけて作りますが、1 人称・2 人称の単数と複数は、それぞれ異なる語を使います。

Q-4：動詞の「語根」と「語尾」の違いは何ですか？

動詞は基本的な意味を示す部分と、法、時制、人称・数によって活用変化する部分に分かれます。たとえば、cantar は「歌う」という意味の動詞の基本形（不定詞）ですが、最初の cant という部分が「歌う」という意味を示し、「語根」と呼びます。ar は不定詞を示す「語尾」です。この語尾が活用によってさまざまに変化します。

Q-5：「動詞の活用」とは何のことですか？

「活用」とは動詞の語尾が人称・数によって変化することを示します。たとえば、canto は「私が歌う」という意味ですが、cant の部分が「歌う」という意味で、o が直説法、現在、1 人称単数の主語（「私が」）を示します。このように o の中に、3 つの文法的な機能がつまっているわけです。cantas の意味は「君が歌う」です。このときの語尾 as は直説法、現在、2 人称単数の主語（「君が」）を示します。

このように動詞の変化形で主語がわかるので、英語の I や you などの代名詞の主語は、スペイン語では必ずしも必要ではありません。

例：

¿Cantas? – Sí, canto.	君歌うの？—うん、歌うよ。
¿Hoy llegas a Madrid? – No, llego mañana.	今日君はマドリードに着く？—いいや、明日着くよ ³ 。

動詞の形はこれらの人称・数に従って便宜上次のように配列されます。

³ 未来のことでも、それを確かなこととして言うときは現在形を使います。未来形は、推量の意味があるときに使います。

一人称単数	一人称複数
二人称単数	二人称複数
三人称単数	三人称複数

Q-6: 「規則変化」と「不規則変化」の違いは何ですか？

語根の部分が基本形と同じで変化しないものを「規則変化」と呼びます。不規則変化では語根の部分が変わります⁴。大部分の動詞は規則的な活用をします。一方、不規則動詞は種類は少ないのですが、使われる頻度が高いです。

Q-7: 「規則変化」はすべて同じですか？

いいえ、実は3種類あるのです⁵。それぞれの動詞がどの種類に属するのかは、基本形の語尾を見るとわかります。たとえば、cantarの語尾はar、comerの語尾はer、vivirの語尾はirです。それぞれAR動詞、ER動詞、IR動詞と呼びます。

基本形	意味	語尾
cantar	歌う	ar
comer	食べる	er
vivir	生きる、住む	ir

⁴ 後で示す「点過去」の「強変化」では、語尾の部分も変わります。

⁵ 3種類あるのは直説法現在形と命令形 2人称複数だけです。他は2種類が多く、未来形や完了形の作り方はすべて同じです。

Q-8: 「AR 動詞」はどのように変化しますか？

AR 動詞は主語の人称・数によって次のように変化します。

cantar	歌う
cant-o	cant-a-mos
cant-a-s	cant-á-is
cant-a	cant-a-n

例：

Juan canta bien. – Sí, canta muy bien.	フアンは歌が上手だ。—そう、とても上手に歌う。
Mañana visitamos el Museo del Prado.	明日私たちはプラド美術館を訪れます。
¿ Tomáis café? – Sí, tomamos café juntos.	君たちはコーヒーを飲む？—うん、私たちは一緒にコーヒーを飲みます。
Pedro y Elvira también toman café.	ペドロとエルビーラもコーヒーを飲みます。

Q-9: 「ER 動詞」はどのように変化しますか？

ER 動詞は主語の人称・数によって次のように変化します。

comer	食べる
com-o	com-e-mos
com-e-s	com-é-is
com-e	com-e-n

例：

Comes mucho. – No, no como mucho.	君はたくさん食べるね。—いや、そんなにたくさん食べないよ。
¿Qué lengua aprendéis ? – Aprendemos español.	君たちは何語を学んでいるの？—私たちはスペイン語を学んでいます。

Q-9: 「IR 動詞」はどのように変化しますか？

IR 動詞は主語の人称・数によって次のように変化します。

vivir	生きる、住む
viv-o	viv-i-mos
viv-e-s	viv-í-s
viv-e	viv-e-n

例：

¿Dónde vives ? – Vivo cerca.	君はどこに住んでいるの？—僕は近くに住んでいるよ。
Vivimos juntos.	私たちは一緒に住んでいます。

* 参考

動詞の特徴母音

直説法現在の3つの活用タイプは似ていますが、それぞれに特徴があります。AR 動詞の特徴は a という母音です。一人称単数を除いてどの活用語尾にも現れています。ER 動詞は e という母音の特徴です。AR 動詞の語尾と比べると、AR 動詞の a の部分が全部 e になっています。

IR 動詞の特徴は i という母音ですが、これは一人称複数と二人称複数でしか現れません。それ以外は ER 動詞と同じです。このように ER 動詞と IR 動詞は活用パターンがよく似ています。一人称単数形はどれも o という語尾になります。特徴母音は直説法現在形だけでなく他の時制にも現れます。

動詞活用強勢の移動

動詞の活用変化では強勢の位置が語尾にあるのが原則ですが、直説法現在形の活用では次の場合に語根に移ります⁶。次の図の太字の部分で強勢が語根にあり、白い部分が語尾（特徴母音）にあります。

強勢	
一人称単数	一人称複数
二人称単数	二人称複数
三人称単数	三人称複数

cant-á-is にはアクセント符号が必要です。そうしないと、s で終わる単語なので語根に強勢がかかることになってしまうからです。

⁶ 他に、点過去強変化、接続法現在、2 人称単数命令形でも強勢が語根に移動します。

* スペイン語の「理由」

英語のように主語を明示すれば、こんなに複雑な活用変化をしなくてもよいはずなのに…

英語にもかつては人称による変化が揃っていました。3単現のsはそのなごりです。英語の兄弟であるドイツ語では今でもしっかりと活用変化があります。スペイン語の動詞が人称により活用するのは主語を省略するため、というより、もともと動詞には人称変化があつて、それによって主語がわかっていたのです。それが英語のように人称変化があいまいになり、主語を明示する必要になったと考えた方がよいと思います。フランス語でも同様に語尾だけではわかりにくくなって、それで主語が義務化されています。